

伊勢平野のさらなる飛躍のために

みやがわのよゆうすい

宮川用水

事業概要と施設位置図

宮川用水は、戦後「国土開発法」を基に、治水・利水・発電などを総合的に開発する「宮川総合開発事業」の中に、この地域の農地約5,800haをかんがいする宮川用水事業として盛り込まれました。これを受け、農林水産省は昭和32年度に「国営宮川用水土地改良事業（S32～S41）」を着手し、栗生頭首工と導水路、幹線水路などの基幹的農業水利施設の建設を行いました。また、県営・団体営かんがい排水事業やほ場整備事業の進展と相俟って、この地域は県下有数の食料生産地となりました。その後、「国営造成施設土地改良施設整備事業（S54～S60）」により一部施設の補強整備が行われたものの、農業形態の変化に伴う用水不足や施設の老朽化などの問題が生じてきました。

このため、平成7年度より「国営宮川用水第二期土地改良事業（H7～H24）」において用水計画を見直し、現在の農業経営に即した用水の確保と国営宮川用水土地改良事業で造成した水利施設の改修を行い、安定した農業経営を実現するため、既設導水路を改修し、地区内に斎宮調整池を造成するとともに、幹線水路の改修を行いました。

また、国営末端水路（支線水路等）の改修を行うため、平成17年度より県営かんがい排水事業が着手され、現在、事業実施中となっています。



主な利水・治水の歴史

江戸時代	1602	惣田池の築堤 南勢地方で最も古い池
	1624	山田奉行中川半左衛門が、幕府に訴え 修理費を請い、大堤防を築く
	1641	千両堤の築堤
	1647	山田氏に続き石川大隈守が前に も増して頑丈な堤防を築く
	1672	鶴松新田（旧浜郷村）の開拓
	1678	五柱池の築造
	1685	旧堤の傍に棒堤を築く
	1685	駿河堤の築堤
	1702	周防様堤の築堤
	1744	田丸領大庄屋見並惣大夫、 宮川利水樹立
	1748	浅間堤の築堤
	1749	押野池の築造
	1753	斎宮池の築造
	1865	宮川堤の修繕を山田市に課す
明治時代	1878	宮川に初めて板橋を架設す
	1906	小川徳三郎、石炭を燃料とした 蒸気機関による揚水に成功
大正	1952	宮川総合開発事業着工
昭和	1957	宮川ダム完工
時代	1957	第一発電所完工
	1958	第二発電所完工
	1957	【一期事業】 国営宮川用水土地改良事業 (1957～1966)
	1964	かんがい面積 A=5,766 ha
	1966	栗生頭首工完工 導水路、幹線水路完工
	1979	【施設整備事業】 国営土地改良施設整備事業 「宮川用水地区」(1979～1985)
	1985	【二期事業】 国営宮川用水第二期土地改良事業 (1995～2012)
平成	2009	かんがい面積 A=4,681 ha
時代	2010	幹線水路完工 斎宮調整池完工

農林水産省東海農政局
宮川用水土地改良区